

<認知症対応型共同生活介護用>
<小規模多機能型居宅介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	8
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	0
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1473400495
法人名	社会福祉法人 愛光会
事業所名	グループホーム みなみ
訪問調査日	平成22年9月13日
評価確定日	平成22年10月25日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は20項目です。
「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

○記入方法

[取り組みの事実]
ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[次ステップに向けて期待したい内容]
次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家 族 = 家族に限定しています。
運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

平成 22 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1473400495	事業の開始年月日	平成16年10月1日
		指定年月日	平成16年10月1日
法人名	社会福祉法人 愛光会		
事業所名	グループホーム みなみ		
所在地	(246-0026) 神奈川県横浜市瀬谷区阿久和南三丁目 2 6 番地3		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果 市町村受理日	平成22年12月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①ご利用者様の要望を常に心がけ、ゆとりある暮らしを目指している。ボランティアを定期的に招き、地域住民と交流しご利用者様の心身のリフレッシュになっている。普通の日常をおくれるようにしている。
②恒例行事で春はイチゴ摘み、秋はみかん狩りと七沢温泉でゆっくり過してきます。月1、2回外食、季節ごとの花見見物等天候を見ながら外出を致します。又、食にこだわりを持っています。ふきのとうが出れば天ぷらにし、茎はきゃらぶき、葉は佃煮にします。もち草で蓬もちを作り、梅干、手打ちうどん等など手作りに心がけています。自然豊かな場所ですのでのんびりと静かに自由に過せると思います。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 S Yビル2 F		
訪問調査日	平成22年9月13日	評価機関 評価決定日	平成22年10月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

このホームの特長
①地元で運送業、保育園を運営していた創始者が、地域に福祉で貢献したいとの思いから開設した特別養護老人ホーム「みなみの苑」を中心として、この地域に3つのグループホームを加えた福祉のネットワークを作り、地元に着した地域特性、自治会、地域包括支援センター、横浜市、瀬谷区との強いパイプを活用し地域へ貢献している。地理的には相鉄三ツ境駅からバスで10分弱、バス停から歩いて4～5分のところにあり、まだ畑が沢山残る、自然豊かなところである。お誕生日会などの外食などは利用者の要望、馴染みの場所、希望の店、天候によってその日に決めている。お散歩コース等は自己決定出来るように支援している。お散歩コースは安全で、安心してゆっくり楽しめる環境である。特養「みなみの苑」ではここの福祉関係者全体で行う夏祭りがご家族、地域の方をお招きして盛大に実施されている。
②このホームはグループホーム第1号として設立された。グループホーム1つでは希望者の要望に応え切れないため、引き続き、グループホームみなみの風、みなみの里を並べて設立した。医療スタッフを持つ特養「みなみの苑」に加えて、横浜いずみ台病院との医療連携の体制が完備しており、医師は月2回往診に来てくれている、グループホームの弱点である終末期を含む医療の弱さがカバーされており、家族は安心して任せることが出来る。主治医とは常に連絡を取り合っている。精神・心療の先生も特養、3ホームで往診をお願いし、約半数が診察を受けている。
③今回取り上げられた職員の意見、職員の満足度(ES)について十分な配慮が為されている。1つは研修であるが、大きく愛光会のノウハウを充分に活用した新人教育、階層別教育がある他、外部開催の研修(県、市、GH連結会等)については費用はホーム待ち、時間内扱いでの出席が配慮されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム みなみ
ユニット名	1階虹

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年数も有りますがご近所とは野菜を頂いたり、声掛けが出来るお付き合いをしています。又、管理者が日常的に職員との話し合いを持ち理念の共有化に努めています。	運営理念は「安全・安心・信頼」を旨とし展開され、玄関に掲示されている。入居者の尊厳、安全、安心と家族・地域密着の信頼をゆったりした自由の中で達成するよう管理者は日々指導している。職員は理念を理解し、各々が持っている気持ちを皆で共有化し、日々の業務に取り組んでいる。ご近所とは野菜を頂いたり、声掛けが出来るお付き合いをしています。	今後の継続	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入しています。町内のゴミ拾い掃除、祭り等、無理なく参加できる行事には参加しています。	“みなみの苑”の知名度は大きく、“みなみの苑”の関係者を通じた福祉に対する「想い」は地域に広く広報され地域の一員として期待されている。自治会に入っており、回覧板を利用者と一緒に次の方に回している。夏祭り、ゴミ拾いなど無理なく参加できる行事には参加している。ご近所とは夕方、畑で会い、お野菜を頂くなど親しくしてもらっている。同じ系列の幼稚園との交流もある。	今後の継続	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近くにある店舗への買い物や御近所のお付き合いは利用者様が自然の形で触れ合う事ができています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	愛光会の3ホームで運営推進会議を行っています。それぞれのホームの違い、良い所を家族が意見を出されます。地域については自治会の方、包括センターの方が助言して下さいますので、サービス向上に生かされています。	愛光会の3ホーム合同で運営推進会議を行っている。それぞれのホーム回り持ちで、主催のホームからは利用者本人も参加し、議事の他にホームの見学も行い、ホームの違い、良い所など家族も意見を出される。地域については自治会の方、包括センターの方の助言をサービス向上に生かしている。	今後の継続	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の研修は必ず出席しています。又、対応の難問、分からない時には意見を伺いに行きます。今までに何回か有ります。	市町村の研修には必ず出席している。情報を知る上でも行政と話し合い、対応の難問、分からない時には意見を伺いに行き、一緒に解決するよう取り組んでる。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は夜間だけ施錠しますが日中は開いていますので自由に出入りされています。又、居室ベランダ側の窓もご自身で開け閉めします。常に話し合いし身体拘束を必要としないケアに取り組んでいます。	玄関は夜間だけ施錠しているが、日中は開けているので出入りは自由である。又、外に出られる居室やベランダ側の窓も利用者が開け閉めしている。職員間で常に話し合いを持ち、身体拘束を必要としないケアに取り組んでいる。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に行き、ミーティングで勉強、話し合いを行ないますし、日常の対応が拘束、虐待にならないかその場で話し合いを持つ事もありますので職員全員が認識を持っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前、後見人が付いている方がいらっしゃいましたので勉強になりました。必要な方が居ましたら説明し、支援できると思います		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項、医寮連携、年間行事、預かり金等の使い道等を丁寧に説明しますので理解されてると思いますがいつでも聞いてくださるよう伝えています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の入り口に意見箱が設置して有りますが家族は職員に直接要望などを声掛けします。開所当時の職員が多いので家族も言いやすいようです。	ご家族のある方は月1回はホームに来てくれている。毎月、明細書と共に、写真を添えて暮らしなどの近況報告し、みなみ通信を出している。家族会（60名近い参加がある）、お誕生会、他にも家族と話し合う機会がある。玄関には意見箱を設置して有る。開所当時からの職員が多いので、ご家族も気軽に話して頂ける体制が出来ている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見交換をしますが個別の意見も大事にします。代表者も聞いてくださり、声も掛けて下さいます。	職員は自由に意見を述べている。ミーティングでも意見交換をするが、個別の意見も大事にしている。法人の代表者も来て、聞いたり、声も掛けたりしてくれている。ケースにより1対1で話す場合やミーティングのテーマとして取り上げる場合等、状況に応じた対応を実施している。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の評価をします。それぞれの状況に合わせ、働きやすいように配慮しています。職員のしたい事、出来ることなどを積極的に取り入れています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員、一人ひとりに合わせた研修。又勉強会に行かれる方には勤務時間を配慮するなど気配りしています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括センターで行なわれる運営推進会議や研修などで校流する機会はあります。1回だけ勉強に出かけた事はあります。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時だけではなく、一人ひとりが安心生活できるように耳を傾け、気配り、配慮を行なっています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族、何方でも玄関入り口で迎え、信頼感を大事にします。家族の要望、困り事も受け止め解決策につながるように努力します。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の生き立ち、趣味、今までの生活などを聞き、入所時に不安にならないようにあらゆる支援を行ないます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活し、泣く時も笑う時も一緒。一つの家族と思っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族の間を取り持っているのが利用者です。その三角形を上手に回るように気持ちを思いやり、支援を行なっています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの方にはいつでも来て頂けるように声を掛けたりしています。面会時間も決めず、外出も自由です。	利用者の馴染みの方にはいつでも来て頂けるように声を掛けている。面会時間も決めず、外出も自由である。近隣の方も多いので、訪問も多く、馴染みの人との関係は継続できている。友人の場合は事前に電話を頂き、ご家族の了解もとっている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	外出、外食、レク等などに全員が参加できるように声掛けします。今までも全員参加です。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に移られた方は食事介助したり顔を見に職員が代わる代わる行きます。退去された後も家族から連絡を頂いたり入居希望の方を紹介して下さるような付き合いがあります。		
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意志を尊重し、希望に添えるようにしています。話を聞く事にしています。	本人、家族と話し合い、希望に添えるように努めている。本人の意志を尊重し、希望に添えるように努め、話を傾聴するようにしている。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の性格、生き立ち、今までの生活を把握し、無理の無いように支援します。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が変わる時に必ず申し送りをしますのと記録に細かく記載されていますので分かりますが声掛けや見守りを強く職員に伝えています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と話し合い、医師の指示を頂き、月1回カンファレンスを行ないます。	何度もカンファレンスを行い、家族とも話し合い、医師の指示を頂いて介護計画を作成している。介護計画の期間の間に変化があれば見直を行っている。重い方のモニタリングは毎日行い、自分で意思を表明出来る人の話は聴くように努めている。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	勤務交代時に申し送りし、個人記録は細かく記載されていますので職員間の共有はできています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決められたプランであっても変化があればその都度、柔軟に対応します。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアさんと月1回の交流があります。歩行が安定されている方、馴染みの店がある方は理髪の為に外出できるように支援します。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の医師と常に連絡を取り合っています。又、病状や本人の希望で他病院に行かれる方もいらっしゃいます。付き添いは職員がします。	協力病院の医師は月2回往診に来てくれている。（看護師は週1回）主治医とは常に連絡の連携を図っている。また、病状や本人の希望で他科にかかる方は、付き添いを職員がしている。精神・心療の先生も特養、3ホームで往診をお願いし、約半数が診察を受けており、適切な医療が受けられるよう支援している。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりや健康チェック表、食事摂取量、記録等を訪看護師に伝えます。時には看護師から医師に伝えて指示を頂く事もあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師、看護師、相談員とは日頃から連絡を取り合っています。ホームの行事に参加して頂いています。入院時は職員が交代で見守りに行きます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	変化が感じられた時は家族に連絡し、家族と医師が話し合える場を作ります。その後も様子を見ながら家族と医師、ホームと連絡を行います。現在ホームでの終末期を希望されている方がいます。	重度化や終末期に向け変化が感じられた時にはご家族に連絡し、家族、医師と3社で話し合いの場を作っている。現在、ホームでの終末期を希望されている方がいる。ここでの生活が楽しいことが大切と常に職員には伝えている。	今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	みなみの苑で行なわれる救急対応の講習会に参加しています。急変、事故等のマニュアルをあります。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	直ぐの近所はありませんが系列の特別養護老人ホームがありますので協力していただきます。利用者と一緒に年2回の消防訓練をしています。避難経路も職員は理解しています。	周りは畑で、直近の近所は無いが、系列の特別養護老人ホームがあり、協力体制が出来ている。利用者と一緒に年2回の消防訓練をしている。避難経路も職員は理解している。備蓄等についても特別養護老人ホームで持っている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	目上の方へ言葉遣い。馴染みが深くなりますとけじめが無くなりますので職員同士で注意するようにしていますのとミーティングで話し合う事も有ります。	馴染みが深くなると得てして、けじめが無くなり勝ちであるので、目上の方への言葉遣いについては、職員同士で注意し合うように研鑽を図っている。ミーティングでも話し合うように努めている。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意志を尊重したいので先回りをするのではなく、じっくり様子を見て自己決定が出来るように見守り傾聴し声掛けをします。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事、外出はお天気や利用者の体調に合わせ、無理なく過せるように支援しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望やその方にあった理美容店に行かれています。季節ごとに衣類の交代、チェックをしています。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いがある方は別の物を出しています。食欲がないときは梅干やきゅうり等を出しますし近くで取れる野菜を召し上がっていただきます。利用者様にもお手伝いをして頂きます。	通常のメニューの他、近くで取れる野菜や梅干やきゅうり等を出している。好き嫌いがある方は別の物を出したり、食欲がないときは梅干やきゅうり等を召し上がって頂いている。利用者にもお手伝いをしてもらっている。おやつも手作りで楽しんでもらっている。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はカロリー計算されているものを使用しています。水分量も把握できています。又具合が悪い時は水分摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアに声掛けします。自身でできない方は職員がケアします。義歯使用でない方も舌ブラシを使用しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつ使用の方も時間でトイレ誘導します。体調を崩してオムツ使用になっても時期を見計らって布パンツに戻れるように支援します。	おむつ使用の方も時間でトイレ誘導している。体調を崩してオムツ使用になっても時期を見計らって布パンツに戻れるように支援している。基本的には個別対応を実施し、その人の習慣に沿った対応を心がけている。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材で根菜や果物、水分摂取を多めにして頂きます。毎朝の体操と散歩等の軽い運動して頂くように支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日の方、自身で何日目にはいると決めている方等自由にしてはいますが入浴が嫌いな方は一日おき位に声掛けしてはいただきます。	入浴は、毎日の方、本人が何日目にはいると決めている方等、意志を尊重し自由にして頂いているが、入浴が嫌いな方については一日おき位に声掛けし、入浴して頂いている。	今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の意志や生活を大事にしていますので皆様自由にしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常備薬でないときは副作用があるかないかを申し送り、で伝える事になっています。利用者に薬の事を聞かれても答えられるように職員が見られる場所に掲示されています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	見守りの中からできる事を見つけ、個々の嗜好や楽しみを見つけ、メリハリの生活ができるように支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お誕生日会や外食は利用者様の要望。馴染みの場所、希望の店、天候によってその日に決まる散歩コース等が自己決定できるように支援しています。	外出では、お誕生日会や外食は利用者の要望に添っている。本人の馴染みの場所、希望の店、天候によりその日に決めている。（七沢のみかん狩り、お花見、あじさいなど）散歩コース等は自己決定出来るように支援している。少人数での遠出も実施しており、ラジャ温泉など楽しむ方もいる。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っていないと不安になる方がいらっしやいます。家族と話し合いの元で持っていますので買い物時はご自身で払われています。又、買い物時に職員からお金を渡され、買い物される方もいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は玄関入り口に有りますので自由に使えます。手紙の返事を書いていただきたいのですが上手くいきません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、リビング、浴室、トイレは広々していますのでぶつかる事も無く圧迫感を感じないし、風通しも良いです。住み心地は最適だと思います。	玄関、廊下、リビング、浴室、トイレは広々していて、共用の空間はゆったりしており圧迫感を感じず、風通しも良く住み心地は最適である。インテリアは写真、利用者の作品が中心に飾られており、新聞の色の部分をちぎったチギリ絵はなかなかの出来ばえであった。	今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングに座り心地の良いソファがあります。新聞やテレビを見たり、思い思いに過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に今まで使われた物を持ってこられるようにお話していますので皆様そうされています。	入居前に今まで使っていた物を持ってきて頂くようにお話している。ご自身が使い慣れたものを持ってきて居心地良い空間に工夫されている。仏壇を持っておられる方もいる。	今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からない方は大きく名前を書いたり、目印をつけています。針仕事、絵が描ける方、台所仕事等その方に合った出来る事を見出した支援を行なっています。		

事業所名	グループホーム みなみ
ユニット名	2階輝

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	週に1度は近所の散歩などをし、地域住民と交流し、会話を楽しみ、時には花を頂いたりする。近くの店へ職員と一緒に買い物を行っている。			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へ加入し回覧板をまわしたりするのも、ご利用者様が行い、地域の方と接している。近くの幼稚園に訪問、お祭りへの参加など地域の行事に参加されている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域をきれいしようと心がけ、外を掃除をするようにしている。地域の方々も、日々接しているため、認知症を理解し、その上でよい交流がうまれている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	立ち会っていないので良く分かりません			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分かりません			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ご利用様が都合がいい時、自由な時間に庭など散歩されている。寝たいときに、昼寝も自由にいただいている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員は、ご利用者様への口の利き方、目線、対応などを気をつけ、虐待を防止している。また入浴介助、着替えなどの際に身体のチェックは怠らないようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の変更など職員同士で伝え合い、掲示板などで知識を共有し、話し合うようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には時間をとり、細かく、丁寧に理解が得られるまで説明を行っている。後から疑問がでたら、その都度、説明を行い納得していただけるまで行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様、ご家族からの要望、意見は職員全員が把握し、施設全体で取り組むようにしている。家族会、家族の訪問時などにご利用者様の暮らしを伝えている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見をすぐに管理者は吸い上げ、検討し、話し合いの場も設け、質の向上を心がけている。また、意見をいつでも聞く体制でいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は現場に赴き、職員、ご利用者様の意見も聞き、施設の把握につとめている。また、給与などでも評価し、職員の意欲をあげている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は定期的に職員に研修などで外部からの知識を得ることを進めている。さらに全体でその知識の共有化が出来ていて、職員全体で実力を伸ばしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修、忘年会、納涼祭など交流する機会をもうけていて、サービスの話など意見交換する場がある。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員は日常生活を丁寧にサポートし、何度でも話を伺い、ご利用者様が健康で安心した生活が出来るように施設全体で努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期には丁寧に、細かいことまで伝え、不安なことがないように努めている。また、いつでもオープンな体制で、ご家族からの意見、要望を聞くようにしてる。ゆっくりと確実な関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様とご家族からの要望を伺い、必要な支援は確実に行う。何事も無理強いせず、ご本人様とご家族と話し合いながら様子を見て行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常にご利用者様と同じ目線で見るようにし、ご本人様を尊重し、支援を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人、ご家族どちらの立場にもかたよった考えをしないようにしている。中立な立場でどちらにもベストな方向でいけるように考え行動するようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで培ってきた人間関係を壊さないように、受け入れる体制の施設になっている。いつでもご友人、ご家族様などの面会、外出ができる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士がリビングで談話し、お互いを理解し、いたわり合いながら生活をされている。職員はその様子を見守り、時には支援をするようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様はもちろん、ご家族様にも定期的に電話などをし様子を伺い、時には相談にものり関係を続けている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	落ち込んでいたり、悩んでいたりするのを見逃さず、ご本人様の立場になり一緒に考え、不安な思いなどを聞いて差し上げる。出来ることは改善している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	できるかぎり昔の生活環境、慣れている環境にし、無理の無い生活を行えるようにしている。また、外出、外食など昔なじみの場所と一緒にいくようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自然な生活リズム、無理のない環境で日常生活を行えるようにしている。散歩、お茶、音楽、TV鑑賞、昼ねなど自由に行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っている。また、必要とあればいつでも見直し、検討をし話し合いをご本人様、ご家族様を含め行っている。職員の提案をご本人様に無理があったりすれば即変えている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を細かく、きちんと記入することにより、職員全員がご利用者を理解し、職員は前向きに介護計画の見直しに参考になっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員はご利用者様一人ひとりに臨機応変に対応できる。ご本人様、ご家族様のことを常に考えた行動をとることができる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方が行っているフラダンス、太鼓などを取り入れ心身ともに活性化している。自然豊かな泉区で季節の花など気分もフレッシュしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様が希望すればすぐに提携病院に受診をする。提携病院以外でも対応をおこなっている。また、定期的に訪問看護、往診があり安心な生活が望める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携病院もあるおかげで常に職員もご利用者様のことを相談でき、アドバイスをいただけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携病院の往診などもあるおかげで、ご利用者様の状況は医療のほうでも把握してくれ、迅速な対応ができています。入院退院もスムーズに行える。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様にはすべてを伝える心の準備が行えるようにしてる。また、ご家族様の心のケアも行っている。提携病院、ご本人様、ご家族様が情報の共有でよりよい日常を送れるように行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当はすべての職員が行える。定期的に訓練も受けている。誰でも迅速に落ち着いた対応ができる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行うことで職員の災害対策と共にご利用者様も対策ができています。避難場所、消火器などすべて理解している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、ご利用者様の心、部屋など土足で踏み入らず、了解を得る。そしてプライバシーを守っている。人前での介助は常に視線を気にし、声掛けは場所、声のトーンを気にして話すようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は常に聞く体制でおり、いつでもご利用者様が話しかけてきても良い感じである。ご利用者様の気持ちを汲み取り、ご本人の意思で決定できるようにサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の気持ち、都合を強制はせず、その人その人の自由な過ごし方を尊重し、ゆとりをもった生活をしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、夜の着替えを介助しご利用者様ごとに対応している。その際、周囲の目のこともこちらが気にしサポートするようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りのお手伝いを職員がおこない、会話を楽しみながら台所しごとをおこなっている。男性ご利用者様にはモヤシのひげとり、台ふきなど少しずつではあるがお手伝いしていただいている。誕生日やバーベキューなど行事は盛大にご家族様も呼び、職員共に食卓で団欒している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が食事で多く取れない方は居室にお茶を持っていき、小まめに水分を取っていただく対応をしている。咀嚼能力も違うので、微塵切、ミキサーなど食事も個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎晩入れ歯の方は入れ歯洗浄剤で清潔にし、毎食後の口腔ケアは欠かさずおこなっている。舌のケアもおこない歯だけでなく口全体を考えて行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居当初はおむつだった方が入居後は布パンツになり、自立してできるかたも多いです。おむつの場合でも自らトイレに行かれ見守りだけになった方も多いです。サポートしその人にあった排泄自立を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬に頼るのではなく、食べ物で便秘予防し、水分、運動など働きかけている。職員はご利用者様全員の排便を把握している。入居後、薬が少なくなっている方が多いです。薬とうまく付き合い、腸の健康を心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	夜間入浴はできていないが、午前中風呂は行っている。ご本人様の都合、体調で入浴するかわからないか決めていただいている。時間も自由にゆっくり入っていただいている。気分、体調を職員は気をつけ、風呂場の清潔にも気をつけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	明かり、空調などの温度管理は個別対応している。夜間のトイレ誘導など安心していけるように職員は迅速に、静かに対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員がご利用者様の服薬、病歴を熟知している。再度認識が必要な場合でもすぐに調べられるように、わかりやすくファイリングしてある。日々の体調を把握し、提携病院と提携して薬を管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別にご利用者様の好きなこと、また興味があることをサポートし、強制もせず、自由に楽しみながら行っている。職員も会話を楽しみながら一緒に行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの散歩はもちろん、ドライブ、買い物、温泉など介護度の重度関係なく出かけている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物はご利用者様自身で選び、会計をいただいている。出来ない方はサポートが必要な時だけ職員が行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はご利用者様皆が使えるようになっている。手紙もだしてらっしゃる。きた手紙が読めない方には丁寧に読むようにしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日掃除を行い清潔保持し、飾りはご利用者様に作っていただいた品をかざるようにしている。その時の季節を大切にするようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机、ソファなどの家具の配置に気をつけている。職員もご利用者様と話す時はソファ、椅子などにすわり落ち着いた感じで話をするようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室でもテレビを楽しまれている方が多いです。本を読まれたり、歌を歌われたり、居室でも自らの趣味をされている方が多いです。居心地のいい環境作りを気をつけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、共用空間ともに安全に動けるよう、足元だけでなく上も気をつけている。物の配置はわかりやすく、動きやすくを心がけている。		

目 標 達 成 計 画

事業所

グループホーム みなみ

作成日

平成22年9月13日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の内容など、職員が専門の用語の意味や内容を知らないことがあります。	全員が広く福祉を理解し、向上したい。	勉強会やミーティングを行います。	無期限
2					
3					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。